**第1学年2組 道徳学習指導案**

1. 主題名 いきものにやさしくしよう｛内容項目 3－（2）｝
2. 資料名 ごめんね、みなみ（学研 P62）
3. 指導計画 1 時間（本時）
4. 本時の学習指導
5. ねらい

 身近な動物に親しみ、易しい心で接しようとする態度を養う。

1. 展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動  | 主な発問と予想される児童の反応  | 教師の支援  | 時間  |
| 1. 動物に対してどのような感情を抱いているかを認識する。
2. 資料「ごめんね、みなみ」を読み話し合う。
 | ○児童にどの動物が好きですか。理由も教えて下さい。  ○イヌ 人間と仲良くできるから。悪い人が来たとき教えてくれたり、芸が出来たりお利口から。 ウサギ フワフワしていて触り心地が良いから。 チーター 強くて、足が速いから。 ○みなみが死んでしまったというニュースを知った子供たちは、どんな気持ちになったのでしょうか。 ・みなみにもう会えなくなるのかと思うと悲しい。 ・どうしてみなみは死んでしまったのだろう。 ・みなみの死に驚いた。   ○園長さんからの話を聞きながら、子供たち | ○好きな動物と、その理由を考えることで、動物の良さを想起するようにする。 ○内容を口頭で確認する。 ○動物の死は悲しいものであることを理解できるようにする。  ○みなみを | 5  |
| 8          8          |
| 場面① 動物園のみなみという名前のきりんが死んでしまった。お腹には赤ちゃんがいた。苦しくてもがいた形跡があった。 |    |
|      |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|   | はどんなことを思っていたのでしょうか。・動物園に来た人たちが、ビニールを捨てなければ、みなみはもっと生きることが出来た。また、赤ちゃんが誕生するはずだった。 ・園長さんは、みなみと生まれてくるはずの赤ちゃんの両方を失って悲しい。      ○子供たちは、どんなことを思いながら、「ごめんね、みなみ。」といったのでしょうか。 ・苦しい思いをさせてしまった。 ・みなみがビニールを食べる可能性があるということを誰も考えなかった。（キリンの習性を誰かが知っていれば、事故は防げたのではないか） ・動物園に来た人たちの不注意でみなみを死なせてしまった。 ・みなみはもっと生きられた。 ・赤ちゃんに会えなかった。 ・みんなが気を付けていればこんなことにはならなかった。     ○動物を飼うときに、動物が安全に暮らすためには、どんなことに気をつければいいですか。 ・動物について勉強する。 ・ビニールやひもなど、誤飲しそうなものを置かない。 ・床が滑りそうな素材ならマットを敷く。  | 知っている子供たちがどのようにみなみの死を捉えているのかを考えられるようにする。   ○自分は平気でも、動物にとっては危険かもしれない。動物が苦しんでからでは遅いので、未然に防ぐ必要があることに気づけるようにする。   ○動物の世話をするのなら、その動物のことを勉強する必要がある |     8                 8                |
| 場面② 次の日新聞の記事にみなみの死が大きくとりあげられ、みなみを知っていた子供たちは悲しんだ。 |   |
|    |
| 場面③ 園長さんから説明があり、みなみの死因は、動物園に来た人たちが捨てていったビニールであったことを子供たりが知り、申し訳なく思った。  |
|          3 これから動物を飼うときにどんなことに注意すべきかを考える。    |
|             4 教師の説話を聞き、まとめをする。  | ・引っ掛けて怪我をしないように、爪を切る。 ・怪我をしないように、とがったものは片づけるか、当たっても痛くないようにテープを巻く。        ○動物に対して愛情をもって接する。また、動物が快適に過ごせる環境下で飼育されているかを考え、不安材料があれば取り除くようにする。  | ことに気づかせる。 ○身の回りの環境を見直す。危ないものは対処法を考えて、動物が安全に暮らせる空間を作る。   ○動物を愛でる心と、管理についてまとめる。  |     3  |

1. 備考 在籍児童数 35 人
2. 板書計画（略）